

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

2011年3月17日号 (Vol.15)



はじめに

1. ガーナ事務所新所長が本プロジェクトを訪問

2. 現場活動の実況中継 -新校舎建設目指して-

3. プロジェクト進捗

3.1 キャパシティアセスメント

3.2 パイロットプロジェクト支援：県議会エンジニアたちの奮闘

3.3 パイロット事業：フィーダー道路・カルバート改修計画

3.4 研修計画：トレーナー育成研修の試行

3.5 地方自治地域開発省・Common wealth と共催し、District Officer の研修を実施

4. コラム

4.1 シエラのチカラ：頑張れオカダライダー！

4.2 ごっつあんです！シエラレオネ 第12話：一期一会の焼き牛

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県

はじめに：

3月11日に襲った東日本巨大地震の被災者の皆様には専門家チーム一同より心からお見舞い申し上げます。これから復興への道は険しいですが、必ずやこの困難を乗り越えると信じています。かつて内戦を経験したシエラレオネのプロジェクト支援対象者の中には多くの内戦被害者がおり、現在、復興から開発の段階へ徐々に向かっています。シエラレオネの多くの方々から日本の被害状況を心配する声が毎日届いています。私たちはシエラレオネから被災者皆さんのことを思いつつ、元気が出るメッセージを送り続けたいと思います。

2月25日に大島副理事長が本プロジェクトのカウンターパート機関である地方自治地域開発省を訪問しました。本省では本邦研修から帰国したばかりのBah次官が対応しました。次官はJICA研修同窓会会長でもあり、本プロジェクトのよき理解者及び協力者です。同次官からは本プロジェクト支援への謝辞と今後のより一層の協力強化を願う旨のメッセージが大島副理事長に伝えられました。



Bah次官からシエラレオネJICA研修同窓会のキャップとボロシャツを受け取る大島副理事長。

シエラレオネは2008年の人間開発指数で179か国中179位でした。行政側も非常に厳しい財政事情であることに変わりはありませんが、本プロジェクトで支援しているパイロットプロジェクトのうち、リーダーの住民動員力不足や事業管理の甘さなどの理由で進捗が遅れている事業に対し、カウンターパートである県議会の独自予算や地方で徴収した税金の一部から資金を捻出すべく一歩一歩ながら準備を進めています。

これら地方行政の一連の対応は、最貧国のひとつであるシエラレオネにおいて特筆すべきことです。我々は彼らの尽力に敬意を評すると共に、行政と住民がより一層円滑に協力できる体制や仕組みを強化して、地元の開発に貢献できるように、背中を後押ししていきます。 (平林リーダー)

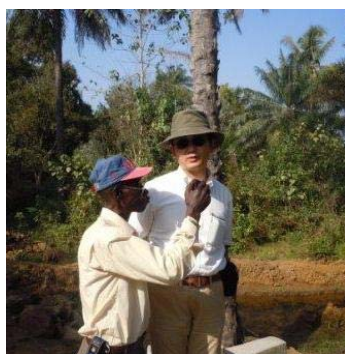
ニュース1：ガーナ事務所新所長が本プロジェクトを訪問

2月23日、24日にガーナ事務所に着任した稲村所長と本プロジェクト担当の相良所員が本プロジェクトを訪問しました。

稲村所長と相良所員は本プロジェクトのカウンターパートである地方自治地域開発省、ポートロコ県およびカンビア県議会を表敬しました。その後、本プロジェクトが支援しているパイロットプロジェクトの現場をいくつか訪問し、カウンターパート、業者、地元住民から説明を受けました。本省から同行した広報官のインタビューも随時行われ、今回のプロジェクト訪問は地元新聞に掲載されました。



カンビア県議会副議長(右)を表敬する稲村所長(左)と相良所員(左から2番目)



現場で県議会職員から説明を受ける(左写真)、広報官のインタビューを受ける稲村所長(中央写真)、マーケット整備事業で住民代表者から説明を受ける(右写真)

(平林リーダー)

ニュース2：現場活動の実況中継 -新校舎建設(ワード121)完了を目指した県議会の動き-

2010年8月末に完了予定だった新校舎建設ですが、地元コミュニティが負担する予定の資金が集まらず、完成が遅れていることについては以前もお伝えしましたが(2011年1月4日号)、最近に大きな動きがありましたのでお伝えします。

今年1月末に本プロジェクトのダイレクターでもある本省の副大臣を県議会に招き、プロジェクトのオーナーシップについてテコ入れを行ってもらいました。この会議の中で、県議会の主席行政官が県の教育ファンドを用いて、学校建設を完成させることを約束しました。さっそく、主席行政官は県議会議長にこ

のアイデアをもちかけ、議長を説得しました。その後、2月初頭に行った議長・主席行政官とプロジェクト専門家の会議の席で、議長から本プロジェクトに対して、新校舎建設完了が遅れていることへの謝罪があり、対応策として県の教育ファンドを用いて業者と契約を結び新校舎建設を完成させることが確認されました。

本プロジェクトでは県議会と共同で、新校舎建設を完了させるために現地再調査を実施し、現在積算書を作成中です。新校舎の完成までにはまだ時間がかかりそうですが、プロジェクトリーダーの言葉を借りると「最貧国と言われる国で、地方行政独自の財源を投入して新校舎建設を完了させるというのはすごいこと」です。今後もあの手この手で県議会のオーナーシップを涵養していき、問題解決体制を強化していきたいと思います。



左写真：建設中の新校舎（左）と既存の学校（右）。中央写真：学校新校舎完成を待ちわびる子供たち。右写真：新校舎建設の未完成部分

（久保嶋専門家：コミュニティ開発担当）

ニュース3：プロジェクト進捗

今年度は専門家がカウンターパートに「やってみせる」段階にあり、県議会と住民の協働体制の現状を把握し、課題を抽出しています。本プロジェクトで開発する県・村落開発ハンドブックのいわば「ネタ」集めの段階です。来年度以降本格化するカウンターパートに「やらせてみる」という技術移転の基礎を固める段階でもあります。ここで、日々活躍する専門家の活動と事業進捗状況をお伝えします。（編集長）

2010 年度実施予定の主な事業		
主な事業	予定	進捗状況
パイロットプロジェクト： パイロットプロジェクト実施を通じたワード委員会・県議会のキャパシティアセスメント	カンビア県 25 件、ポートロコ県 7 件（社会・経済基盤整備）のパイロットプロジェクト支援を通じ、ワード委員会・県議会のキャパシティアセスメントを行う。同時に来年度から開始するモデル事業のためのモデルワードを選定する。	アセスメント体制の整備。 工事進捗：フェーズ 1&2(11 件)： パイロットプロジェクト 8 件 完了, 3 件実施中。 フェーズ 3&4(21 件)：パイロットプロジェクト実施開始。
パイロットプロジェクト： フィーダー道路・カルバート改修工事を通じた県議会の実施体制整備	県議会及び道路局の現状把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ 1 第 1 ターム（2011 年 5 月末まで） カンビア県：フィーダー道路計 17Km, カルバート 32 箇所 ポートロコ県：フィーダー道路 12.7Km, カルバート 7 箇所	課題の抽出とまとめ。 工事進捗：現場での工事開始。

3.1 キャパシティアセスメント –モデルワードを選定するためのパイロットプロジェクト–

3月半ばになり、フェーズ3&4のパイロットプロジェクトの中には、完成した事業が出てきました。各ワードのキャパシティアセスメントによる点数化では、工期内のパイロットプロジェクトの完成を重視していますが、この他、事業管理のための書類作成状況も一つ一つ確認しています。

書類作成が適正にできているワードは評価点が高くなりますし、今後モデルワードに選定された際も、村落開発のモデルになっていける事が期待できます。そのため、適正な書類作成と管理をしたいというワードが多くありますが、その方法は、様々です。



県職員（中央）に書類項目の確認をしてもらうワード議員（右）、ポートルコ県のワード199

例えば、ワード120では収穫物を乾燥させるドラインングフロアを4カ所整備しています。労力や砂利や砂等の地元資源の動員状況は、各整備箇所管理しています。一方、ワード131では井戸を3カ所改修整備していますが、地元資源の動員状況は、3箇所ともワード・セクレタリーが一括管理しています。また、ワード199では学校1箇所の改修整備のみで、ワード議員が直接管理しています。



完成した収穫物を乾燥させるドラインングフロア

ワード120のワード議員は、「各整備箇所管理しているが、筆記している人の識字レベルが低く、適正な書類作成ができていない。したがって、彼等が作成した書類をそのまま県議会へ提出する事は出来ない。彼等が作成した書類は、一度ワード議員が確認した後、提出したい」と言っています。

ワード131のワード議員は、ワード・セクレタリーに一任しており、彼が各箇所を巡回して書類を作成し、県議会へ提出しようとしています。

第1回目のモニタリングでは、どちらのワードも書類作成状況は完璧ではありませんでしたので、適正な書類作成ができるように、県職員がアドバイスをしていました。

ワード199のワード議員は、全ての書類を熟読しており、第1回目のモニタリング時点でも、ほぼ適正な書類作成が出来ていました。第1回目のモニタリングでは各書類の中の各項目の確認作業をしていましたので、後は多少の修正です。

パイロットプロジェクトの完成と共に、第2回目のモニタリングも開始しつつあります。それまでに彼等の書類作成レベルはどれほど向上しているのでしょうか。

(近藤専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当)

3.2 パイロットプロジェクト支援 —県議会エンジニアたちの奮闘—

2月に入ると、それぞれの現場でいよいよ改修・建設工事が本格的に動き始めました。現場で実際に工事を行うのはコミュニティで動員された人々、その日々の管理を行うのはプロジェクト運営委員会です。技術的なアドバイスをし、工事の進捗監督を行うのは、県議会エンジニアの重要な役割です。

現在のパイロットプロジェクトは「やってみせる」段階でもあり、連日複数の現場を訪れ、プロジェクト雇用エンジニアが県議会エンジニアたちに指導を行っています。指導とは言っても、なるべく彼らを前面に立たせ、彼らが出来ることは積極的に行ってもらうようにしています。案件数が両県で計21サイトと多いため、プロジェクト側の疲労もピークに達していますが、うれしい変化も見えるようになってきました。

例えばカンビア県議会のエンジニアですが、着任当初は自信が無かったのか、恥ずかしがり屋で人前を出ることを嫌がり、いつもプロジェクト雇用エンジニアの後ろに隠れ、まるで弟のようにもじもじとしていました。それが今では自分のやるべき事がわかってきたのか、現場を訪れるときはいつも議員や地元の技術者に対して、積極的にアドバイスをを行うようになりました。見違えるようです。重要な役を与えられたことで、意識が変わってきたようです。今後もう少し業務と責任を増やしていきたいと思います。

また、ポートルコ県エンジニアは以前は「報酬がないから、やらない。」「そもそもこれは俺の仕事じゃない。」「俺はもう十分な能力があるからプロジェクトは必要ない。」と、こちらを悩ませる数々の名言を残してきましたが、今となっては精力的に現場監督を行っています。副大臣のテコ入れもあり、自身の重要な役割について認識し始めたようです。

初めは嫌そうな顔をしながら、ついてきているという感じでしたが、自分の行ったアドバイスが反映されて建屋が週ごとに変化していくのがおもしろくなってきたのか、元々予定に入っていなかった日にも同行するようになりました。いつしか技術的な部分だけでなく、プロジェクトの重要性や、コミュニティ貢献分の重要性などについてもアドバイスを行うようになり、議員からは「あのアドバイスのおかげで、コミュニティが団結して、予定よりも大幅に早く工事を完了させる事ができた」と感謝されています。このように県議会職員が地域住民から感謝されていけるように、あの手この手で県議会職員たちを奮い立たせていきたいと思います。



採寸を指示するポートルコ県エンジニア（右端）



問題の聞き取りを行うカンビア県エンジニア（中央右）

（久保嶋専門家：コミュニティ開発担当）

3.3 パイロットプロジェクト：フィーダー道路・カルバート改修工事 ー道の整備と計画の重要性ー

フィーダー道路は、農村地域内を結ぶ道路で、住民の生活の質の向上や地域開発のために必要な道路です。整備には、シエラレオネの道路局、農業セクター、県議会等が関わっています。このプロジェクトでは、道路計画において両県議会の県・村落地域開発モデルの策定と道路整備における実施能力の向上を目的としています。

さて、県議会の実施能力向上の一環として始まった道路改修工事は、4サイトで施工業者によって工事が開始されました。5月末までの乾季中に、両県合わせて約29kmを完成させます。

今回の工事は、道路局の基準によりフィーダー道路表面は砂利による舗装です。県議会の道路改修工事では、人力による工事が普通ですが、耐久性がないため、今回は重機を利用することにしました。受託した4業者は、シエラの中小企業で、重機を所有していません。ですから、道路局もしくは近隣の鉱山会社から借り受けています。ただ、道路局の重機は古く故障がちで、そのたびに工事がストップします。

また、4業者とも真摯に業務を進めていますが、進捗には多少差が出てきています。原因の一つは、業者の現場監督の技量です。比較的、進捗の良い業者の現場監督は、村に駐在し、生活に苦労しながらも、「この仕事が好きで、やりがいを感じている」と道路計画の策定にも進展がありました。

本来道路は、広域の視点で道路が網としてつながるように計画を立てて、つなげていくことが重要です。今回は、県議会の能力向上もあり、県議会主導で計画を立てた結果、議員の政治的な力に左右されたところもありました。また、道路局の協力体制も不十分でした。最近のことですが、次回の計画策定では（県議会は口頭ではありますが）、道路局のエンジニアも巻き込んで計画を立て、よりよい道路網を構築に向けて県議会と道路局が両者合意しました。これは大きな進展です。道路局と県議会の関係の構築もプロジェクトの重要な目的であり、今後も注力していきます。



比較的状況のよい重機（モーターグレイダー）。作業が円滑に進む。



雇用された住民による手作業。なれない作業に四苦八苦。支払い等の交渉に手間取ることも。



現場で指導する県議会エンジニア（左奥から2番目）と宿谷専門家（右奥から3番目）

（宿谷専門家：調達制度・道路計画担当）

3.4 研修計画 — トレーナー育成研修の試行 —

前回報告しましたコンピューター研修テキストを使い、ポートルコ県議会の人事官（Human Resource Officer）へ試行的にトレーナー育成研修（将来、当人事官に研修講師として活躍してもらうための研修）を実施しました。

今回は、本格的なトレーナー育成研修を実施する前に、テキストの内容の確認することが目的です。まずは人事官の協力を得てテキスト内容でトレーニングをスムーズに実施できるか否かを確認しました。

結果は、「テキストへの補足説明が加筆や説明方法の変更が必要」というものでした。普段業務で Word を使っているものの「各機能やボタンの名称は聞いたことがない」ということで簡単なボタン配置の説明を付け加え、さまざまな表現方法の工夫を行う必要があります。

また、今回トレーニングを実施した人事官の PC には、Office2007 と Office2003 の双方がインストールされており、Office2007 のみがインストールされている PC とは違う動きをしてしまうことも確認。どうやら、トレーニング実施の前には、各スタッフの PC 環境確認の手順も必要ようです。

まだまだ修正が必要なテキストですが、人事官の今回の試行トレーニングの感想は「初めてまともなトレーニングを受けた。是非とも自分もトレーニングが実施できるようになりたい。」と、試行トレーニングではあったものの、満足してもらえたようでした。

引き続きテキストの修正を行い、4～5月にかけて本格的なトレーニングを実施する予定です。次回は、特別プログラム「Excel トレーニング」を報告する予定です。

（吉野専門家：業務調整/研修計画担当）



ポートルコ県議会人事官（左）へ指導する吉野専門家（右）

3.5本プロジェクトが地方自治地域開発省・Common wealthと共催し、District Officerの研修ワークショップを実施

2004年以降シエラレオネでは地方分権化を推進しており、その動きは今年に入り加速しています。関連法やポリシーの整備、県議会への職員の配置などの準備が進んでおり、本プロジェクトでもこの動きを支援しています。

3月に入り、本省から全国にある12の県議会に District officer が配置されることになりました。主な目的は本省と県議会の連携を強化すること、県議会の機能を強化することです。District Officer の配置にあたり、3月3日と4日の両日、北部州州都であるマケニ市において、本プロジェクトが本省、Common wealth と共催で研修ワークショップを



研修ワークショップの様子（マケニ市役所ホールにて）

開催しました。

本省からは大臣、副大臣、人事院、内閣官房、地方からは全国にある 19 の議会からは議長、主席行政官及び市長、チーフダムからはパラマウントチーフ代表、赴任予定の District Officer らが招かれ総勢 100 名近いワークショップとなりました。参加者は、本省から派遣される District Officer の役割や連携のあり方について説明を受け、グループワークで意見交換しました。実際に District Officer が各地に配置されてから、様々な課題や成果が見えてくることでしょう。



研修冒頭に挨拶を述べるJICAシエラレオネフィールドオフィスの立田企画調査員（写真右）。壇上中央が地方自治地域開発大臣。

全国の地方行政関係者が集まるこの機会をとらえ、参加者に対して、本プロジェクトの活動内容を伝えると共に、プロジェクトパンフレットを参加者全員に配布し、広報活動も行いました。

参加者からは本プロジェクト及びシエラレオネに対する JICA 事業全体への賛辞が何度となく出てきました。JICA の支援がシエラレオネの地方にも浸透しつつあることを感じた印象的な時でした。

(平林リーダー)

コラム：シエラのチカラ —頑張れ オカダライダー！— by 吉野 専門家

ポートルコ県ワード 180。このワードの境界線の大部分は川です。そのため、ワード内外への主な移動手段は船やフェリーになります。もちろん橋も架かっていますがその数は少なく、車両が通行できるような橋はワードの東の境界にあり、使い勝手がよくありません。

雨期明け間もない昨年 11 月。パイロットプロジェクトの進捗に大幅な遅れが見られるため、ワード 180 を訪れた時のことです。「ワード 180 にはフェリーで行く」と聞いていたので、川岸に着いた私はいわゆる「フェリー」を探しました。しかし、視界に入ってくるのは「いかだ」のみ。どうやら、フェリーとはこの巨大いかだのようです。



フェリーならぬ、巨大イカダ

このフェリー、基本的には車が来るまで動かないようで、「バイク一台向こう岸まで！」と頼んでも、車が乗っていなかったり、フェリーが対岸にあるときは相手にしてもらえないことが多いとのこと。

こうなると大変なのが、「オカダライダー」です。「オカダ」とはバイクタクシーのことで、ナイジェリアがその語源だそうです。この「オカダ」はシエラレオネでは庶民の脚として大活躍しており、地方では最も重要な公共交通手段のひとつです。

「オカダ」はタイミング良くこのフェリー乗り場に着かないと、なかなかフェリーで川を越えることが出来ません。プロジェクトのナショナルスタッフ曰く、「オカダライダーはフェリーでなくボートを利用するこ

とが多いよ」とのことでした。「ボートを利用するとは言うものの、バイクを載せてどうやってバランスをとるのだろう？」

フェリーの出発をしばらく待っていると、向こう岸からゆらゆらと小さなボート。よくよく見ると、なんと！バイクを積んでいるのではないですか！抜群のタイミングで、ボートにバイクを積んで川を渡る場面に遭遇しました。

バイクはボートから大きくはみ出しており、ちょっと気を抜くと間違いなく転覆です。上手にバランスをとりながら、自分のバイクと乗客を乗せボートを操るオカダライダー。ワード180を拠点に働くオカダライダーは、バイクだけでなく丸太舟も絶妙なバランス感覚で操らなければなりません。水陸両方乗り物の技能を持ち合わせなければ仕事にならない、ワード180のオカダライダー。なんとも頼もしい！

経済効率や費用対効果という高い壁があり、近い将来に橋が架かる可能性は少ないかもしれないですが、この川に橋が架かるその日まで、ワード180の住民の脚として、バイクを川に沈めないように頑張れ、オカダライダー！



ボートでバイクと乗客を運ぶオカダライダー

コラム：ごつつあんです、シエラレオネ 第12話 一期一会の焼き牛 by ひらしゅらん

ネオンが町中に浮かびあがる夕方。飲み屋に入って、「とりあえずビールとつまみは焼き鳥をお願い。」なんて注文している人、見たことないですか？日本では「つまみ」として堂々たる地位を築いている焼き鳥ですが、シエラレオネではなんと焼き鳥ならぬ「焼き牛」が、一般庶民のいわば「おやつ」になっています。串に刺さった焼き牛肉。だから焼き牛です。

昼間から路上や町中で、焼き牛をきれいに並べた容器を頭の上に乗せ、売り歩いている人たちをみかけたら、どうしますか？やっぱり、食べてみますよね。ひらしゅらんとしては、味見しないわけにはいきません。



幸運な日は焼きたての「焼き牛」に出会えます。

この焼き牛、レバー串とそれ以外の部位の串に分かれています。早速、レバーを頼んで一口食べると、「やわらかくて、おいしい」の一言に尽きます。昼間から食べられるのがうれしいです。さらに、串盛りの上に乗っているたまねぎや青唐辛子も適量につまんで食べてもいいんです。うれしいですね。焼きたての焼き牛に出会った日は一日が幸せになります。最高にジューシーな一品です。



行きつけの焼き牛売り。

よく利用するガソリンスタンドで焼き牛を売る男の子がいます。彼は午後、学校が終わると、家計の足しにと毎日焼き牛を売っています。彼の売る焼き

牛はいつも新鮮でとってもおいしいので私は常連客になっています。このガソリンスタンドでは、車に乗って給油にやってくるお客さんやバスを待っているお客さんが焼き牛を1, 2本頼んで、さーっと食べて、串を売り子に返して、さーっと立ち去っていく姿をよく見かけます。まさにおやつ感覚です。

この焼き牛、1本の串に5個から6個の肉が刺さって、日本円で約20円。ついつい食べ過ぎてしまいます。外国人向けの食品は他のアフリカ諸国に比べて高いシエラレオネですが、庶民の食べ物は私たち日本人にはとても安くありがたい限りです。焼き牛、なじみやすい絶品です。

お店：路上です。

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。焼き立てに出会えたらその日は大吉です。

コラム：番外編ごっつあんです、一地方で楽しめるお肉ー by ひらしゅらん

シエラレオネの地方で食べられる食用ねずみのお肉を紹介します。こちらではグラスカッターと呼ばれています。アフリカでは養殖している国もあります。

このグラスカッターのお肉ですが、ポートロコ県のマーケットなどに行くと、よく売っている一品です。程よくグリルした肉をパームオイルでコーティング。これで日持ちがよくなるそうです。このお肉の値段はひとつ約20円です。

早速、売り子の女性にグラスカッターをひとつ頼みました。お肉を新聞に包んで渡してくれます。食べてみると、少々硬く、噛み応えがあります。炭火焼の香ばしい香りと、野生の香りが交じり合った味のシンフォニーです。地元の人たちに人気の一品です。

このグラスカッター、見るとかわいいですね。実物を見たことはないですけど。お肉になったら、供養のためにもおいしくいただきます。



グラスカッターのお肉。パームオイルでコーティングされています。



これがグラスカッターです。

(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートロコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年11月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートロコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートロコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整/研修計画専門家、宿谷調達制度/道路計画専門家、久保嶋コミュニティ開発専門家、近藤キャパシティアセスメント/コミュニティ開発専門家（2011年3月実績）